

令和7年度 小樽市立望洋台小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

昨年度の定着目標は、国語・算数ともにどの学年も達成率が低くなっていた。児童アンケートでは、「授業がわかる」と答えた児童はある程度の割合見られるが、それが成果となって表れてはいない。

学習・生活習慣については、どの学年でも目標に届いていない現状である。

全国学力・学習状況調査は国語で全国平均より+1.3P、算数は-7.4Pとなり算数科に全国との開きが見られた。標準学力調査については、3・5学年ともに全国平均を下回ったが、特に3学年においては全国平均との差が大きい。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
2年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
3年	・標準学力調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
4年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
5年	・標準学力調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
6年	・全国学力・学習状況調査全国平均以上、または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「国語の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。

<算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
2年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
3年	・標準学力調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
4年	・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
5年	・標準学力調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。
6年	・全国学力・学習状況調査全国平均以上または全国平均と同等（±2） ・チャレンジテスト全道平均以上。 ・「算数の授業がわかる」と回答する児童が90%以上。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・20分以上の家庭学習達成率60%以上
2年	・30分以上の家庭学習達成率60%以上
3年	・40分以上の家庭学習達成率50%以上
4年	・50分以上の家庭学習達成率50%以上
5年	・60分以上の家庭学習達成率40%以上
6年	・70分以上の家庭学習達成率40%以上

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学習規律、端末のきまり、学習環境の整備
- ②教科を貫く基礎・基本を押さえた学習活動
- ③算数科における習熟度別少人数指導、T・Tの実践
- ④「スマイルドリル」「チャレンジテスト」「確認テスト」の実施

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくり5つのSTEP!!」に基づく、1人1台端末を効果的に活用した子ども主体の授業づくりの工夫（校内研修を軸として）
- ②学習規律を基盤とし、「小樽 授業づくり5つのステップ」に基づいた授業実践
- ③「児童と学習のゴールを共有する」「児童が自己選択・決定・調整する場の設定する」「児童が学んだことを働かせる場を設定する」という視点を取り入れた授業づくりの工夫

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①学年の応じた家庭学習の目的・内容等の周知、定期的な各学級の取組状況の確認（家庭での学習習慣がない児童を0にする）
- ②端末を活用した家庭学習の取組の啓蒙、工夫
- ③「生活リズムチェックシート」を活用した学習・生活習慣の改善
- ④各家庭でテレビ視聴、ゲーム・携帯等の時間についてのルールづくりの啓蒙（スマート7等）

（4）その他

- ①「発達支持的生徒指導」を基盤とした、学ぶ意欲・自己存在感・自己有用感の高揚、共感的な人間関係づくり

4 実施計画

年月日	計画内容
R7年 4月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・スマイルドリルの年度更新 ・学力向上改善プラン共通意識及び保護者への周知 ○R7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月 6月 7月	・学級経営案に基づいた児童理解交流 ・生活リズムチェックシートの活用 ○標準学力調査結果分析 ・1学期「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・学校評価の実施、分析・休休み学習会 ・児童理解支援ツール「ほっと」の実施
8月 9月 10月	・改善プランの取組検証 ・児童理解支援ツール「ほっと」結果を受けた改善策 ○R7全国学力・学習状況調査結果分析 ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月 12月	・公開研究会実施 ・生活リズムチェックシートの活用 ・2学期「確認テスト」の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・学校評価の実施、分析・冬休み学習会 ・児童理解支援ツール「ほっと」の実施
R8年 1月 2月 3月	・児童理解支援ツール「ほっと」結果を受けた改善策 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成 ・3学期「確認テスト」の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・学校関係者評価の実施と公表 ・チャレンジテストの実施 ・学力向上改善プラン作成

5 評価方法

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①児童アンケートの実施 ②～④学期毎にチャレンジテストと確認テストを実施、評価、改善策の立案

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①標準学力調査結果の経年比較・分析、改善策の立案、全国学力・学習状況調査結果を経年比較・分析、改善策の立案
- ②学習意欲や理解、家庭学習の取組状況等の把握と改善策の立案、校内研修での振り返り
- ③各種アンケート（児童・保護者・教職員）の実施、結果分析と改善策の立案

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①研究部による確認
- ②～④生活リズムチェックを4月、8月、1月に行い、生活実態等を評価、改善策の立案
- ⑤新しい学びの授業力向上推進事業取組振り返りシートを活用

（4）その他

- ①校内研修を実施、実施後のアンケートを基にした振り返り